

令和6年度 富士市 PTA 連絡協議会 合同研修会
分科会会議記録簿

令和6年6月23日(日)	会場	伝法小学校	参加者数	14名
分科会	テーマ①(小A)			
司会者	増田 圭佑	助言者	望月 和洋	
記録者	落合 麻美子	サポート	—	
<p>テーマ 「少子化等により会員数が減少していくなかでの、運営方法について」</p>				
<p>会議概要</p>				
<p>【議題1：役員を選出方法について】</p>				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 部員は立候補制、本部役員は知り合いに声を掛け選出 ・ 昨年度から立候補制（立候補がいなかったので、くじ引き） ・ PTA 活動を軽減し、役員が楽しく活動していることが大切 ・ まちづくり協議会や個人の SNS で街や活動の魅力を発信している(主に、子育て世代に向けて)保護者や子育て世代の意見を取り入れていき、仲間を作っているのも、サポートしたいという方はたくさんいる。 ・ 立候補者がいない場合、4年生の保護者のうち、免除者を除いた約 20 名の中から、前年度の PTA 会長がくじを引き、役職が決まる。後日、郵送で役職が知らされる。 ・ 子ども会が PTA と密接している。PTA 本部役員は地区役員を兼任。部は廃止しているので、活動を振り分けている。 ・ 同じ学校でも、住まいの地区によって選出方法等が違う。 				
<p>(その他)</p>				
<ul style="list-style-type: none"> ・ PTA の活動内容が不明確な点があり、人が集まらない。 ・ 誰が役員になっても活動しやすいよう、活動をマニュアル化、簡素化していくべき。 ・ 女性同士だと確信をついたことを言えない傾向が、もっと父親の参加を促したい。 ・ 役員の特権を設けるよう進めている（運動会は特等席で観覧、学校行事は車で来校可等） ・ ボランティアはいつまでも無償ではできない。報酬を発生させる必要があるのでは。 ・ 総会など形式的なことは必要だと思えない。ポイントをおさえて、やるべきことだけで良いのでは。 				
<p>【議事2：組織体制、活動内容について】</p>				
<ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍に専門部で集まるのは難しくなり、専門部を廃止した。 ・ 朝の旗振りを廃止し、見守り活動にした。 				

令和6年度 富士市 PTA 連絡協議会 合同研修会

分科会会議記録簿

令和6年6月23日(日)	会場	伝法小学校	参加者数	12名
分科会	テーマ① (小B)			
司会者	後藤 隆章	助言者	田中 敦子	
記録者	高橋 直人	サポート	渡邊 真一郎	
<p>テーマ</p> <p>少子化等により会員数が減少していくなかでの、運営方法について</p>				
<p>会議概要</p> <p>役員選出について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人数の少ない町内で、役員を過去にやってないと役員をやらないといけないような雰囲気がある。 ・強制的な感じがあり、逆に手を上げにくい。 ・人数の少ない町内だとスッと決まりやすい。 ・嫌な雰囲気はない。 ・PTA 役員が少ないと役を掛け持ちでやらないといけないから大変。 ・子供会から PTA 役員選出していて、本部役員は一本釣り。 ・役員をやるとなかなか役員を抜けるタイミングがなく、子供が卒業のタイミングで抜ける。 ・役員内で強制ではなく親睦を深める意味で飲み会とかを頻繁にやっている。そういうちょっとした楽しみがないと逆につまらない。 <p>親睦が深まりいい雰囲気で活動できていると思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昔は先生方も一緒に飲み会の席にいたが、今はそういうのがなく、コミュニケーションが薄れてきている。 ・人数の少ない学校では部の縮小をして活動している。 ・子供会の人数も減り、PTA とは別にしていて、学校側から文書を出して PTA 役員を選出している。 ・子供会選出してから→PTA 役員選出をしている ・役員選出で、いないならやってもいいという雰囲気がある。 ・PTA 会長選出は、式とかのあいさつをやりたくない人が多数いる。 ・役員やってもメリットがない(式をいい席で見るとかあってもいいと思う) ・役員選出は執行部が決めている、役員選出に困らない ・基本やりたい人が集まってくれて役員選出に困らない□・執行部が決めているので自動的に役員をやめていく感じで困らない□・役員選出で新たに換えようとするタイミングが難しい。 <p>(たとえば部を減らすなど)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会合のスリム化で会合を減らしても実際に役員同士が会う機会が減り、コミュニケーションがとれなくなる。 ・家庭教育委員は市 P 連の事業にも参加があって負担が大きい。特に人数が少ない学校は役員も少ないので、PTA 副会長が家庭教育委員を掛け持ちでやったりしている。 ・市 P 連の会合が多すぎる。実際オンラインとかでも何とかならないか検討してほしい <p>部の編成(組織体制)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PTA 新聞を(HP に)あげることで、成人教育部の活動をなくした。 ・HP (パスワードあり) に掲載することで新聞の削減ができる。 ・新聞も外部に情報モレが恐い。 ・昔と比べて部内に温度差がある。 ・部の活動が楽しくなくなってきた。 				

令和6年度 富士市 PTA 連絡協議会 合同研修会
分科会会議記録簿

令和6年6月23日(日)	会場	伝法小学校	参加者数	17名
分科会	テーマ① (中)			
司会者	山本 幸洋	助言者	井上 淳	
記録者	今村 亨子	サポート	佐藤 寛之	
<p>テーマ</p> <p>「少子化等により会員数が減少していくなかでの、運営方法について」 「役員選出、部の構成、会議の回数、また非加入の方へのアプローチ」</p>				
<p>会議概要</p>				
<p>議題1 「役員選出方法について」</p>				
<p>役員選出……輪番制、一本釣り、立候補制。</p>				
<p>会長選出……輪番制、一本釣り、互選。</p>				
<p>地区役員選出……輪番制、地区ルール、廃止。</p>				
<p>具体例……※役員からの一本釣り。</p>				
<p>※小学校で大役をやられてない方からくじ引きをし中学校で大役。</p>				
<p>但し、小学校で大役をやられた方は任意。</p>				
<p>※学校によって、町内選抜から学年選抜での選出方法へ変えていくかを検討中。</p>				
<p>※新2年生の保護者の方から立候補又は募集。</p>				
<p>※地区によっては世帯数に差がある為、大きな世帯数から役員を増やしていく。</p>				
<p>※新2年生の保護者全員専門部として参加。</p>				
<p>※学校によっては、小、中、子ども会共に足並みを揃えて役員選出出来るようにしていく。</p>				
<p>課題2 「PTA活動について」</p>				
<p>※学校によってPTA活動はそのまま継続、又は規模を縮小や活動数をへらす。</p>				
<p>課題解決型等。</p>				
<p>※制服、体操服等のバザー。</p>				
<p>対象としては学校によって様々で、6年生又は在校生へ販売。</p>				

令和6年度 富士市 PTA 連絡協議会 合同研修会
分科会会議記録簿

令和6年6月23日(日)	会場	伝法小学校	参加者数	14名
分科会	テーマ②(小A)			
司会者	大塚 典彦	助言者	若林 努	
記録者	日高 綾子	サポート	石川 杏	
<p>テーマ 「小中一貫教育化や学校運営協議会って何？」</p>				
<p>会議概要</p>				
<p>・「小中一貫教育・学校運営協議会について」教育委員会 教育研修センター和田さんより説明</p>				
<p>令和6年4月から市立全小中学校でスタート。6年間の準備期間があった。</p>				
<p>義務教育9年間の子供の成長、学びを一連としてとらえていく。小中学校の教育目標の一本化、</p>				
<p>同じ目標を掲げていく。教育課程の一本化。小学校の学びが中学に繋がっている、学びが高学年、</p>				
<p>中学の学びの、どこにつながっていくのか示しながら教えていくことで切れ目のない学び。</p>				
<p>たての接続は小中一貫、よこの連携は小小の連携・協働、コミュニティスクールは地域連携として</p>				
<p>よこの連携の要。コミュニティスクールとは学校運営協議会という会を設置した学校のこと。学校</p>				
<p>運営協議会は保護者や地域の方がメンバー。役割は、学校営の基本方針の承認や学校運営・教育</p>				
<p>活動に意見できる、教職員の任用に関する意見を教育委員会にできる。</p>				
<p>地域住民も教育の当事者。学校と地域が両輪となり、社会全体で子供たちの成長を支えていく。</p>				
<p>地域と学校がたくさんつながる為に、CSディレクターの役割が必要となり、各校1名配置</p>				
<p>・CSディレクター仲神さんより：CSディレクターは学校と地域の間に入り、必要な地域の方の</p>				
<p>手配調整をしている。具体的には、CSだよりの発行、様々な授業で必要なサポート役の手配や、</p>				
<p>講師として教えてくれる方を探す、地域のお祭りで地域が必要な子供たちを派遣するなど。</p>				
<p>先生方と連携して、学校の子供達と一緒に育ててくれる地域の方を沢山見つけたい。</p>				
<p>お便りで写真と文字で発信しているが浸透していかない。当事者意識をもってもらえるように発信</p>				
<p>していく必要がある。子供達が地域に出ていく事が増えると、子供達が大きくなった時、</p>				
<p>地域を離れてもまた戻ってきたいと思えるような活動の一助になればいいと思っている。</p>				

<p>・学校運営協議会のメンバーはどうやって決められていますか？</p>
<p>→評議委員だった方や PTA 会長、まちづくりセンター長や地域の民生委員、幼稚園の園長、学校に係わってくれている企業の方など地域の特色が出る。誰と必ずしも決まっていない。</p>
<p>・富士川第二小学校・中学校のように、同じ校舎で学ぶ一貫校が最終的に目指すところですか？</p>
<p>→子供の数の減少、施設老朽化などがあるので、いずれそういう形が多くなっていくかもしれないが現在そこを目指しているわけではない。</p>
<p>・皆さんの学校ではどんな活動がありますか？</p>
<p>→第二小では、学校運営協議会の中で、5・6年生の学校向上委員会の子供たちが地域の人の前で、パワーポイントを使用し、挨拶についてプレゼンした。</p>
<p>→鷹岡小の6年生が鷹中に行く前に鷹中に行く、鷹小と天間小で行き来の学年の交流がある。</p>
<p>今年度は挨拶運動校なので、鷹中の生徒会が朝、鷹小・天間小に来て、挨拶運動をしてくれた。</p>
<p>中学校の生徒会と小学校の児童会が話し合っただけ。</p>
<p>・富士川第二小は一貫校として2年経過して、デメリットを感じた事ありますか？</p>
<p>→デメリットではないが違うこととしては、入学式の入場は1年生と9年生と一緒に入場する。</p>
<p>5年生と7年生と一緒に林間学校に行く。6・9年生は修学旅行ではなく、『夢、発見旅行』として場所は修学旅行と変わらないが内容はとても充実したものになった。8年生は臨海学校として研修。</p>
<p>一番の違いは6年生の卒業式がない。子供たちだけの終了式という形。中学の入学式もない。中学になると制服着用するが式はない。5年立志式があり、大人になったらどんな風になりたい、どんな職業に就きたいを語る会に5年生の親は行ける。7年生は入学式がないので、親が来るという機会がないが写真を撮る時間を作ってもらった。学校運営協議会は小中一貫なので、一緒に行く。</p>
<p>6年生から7年生になるといっても廊下挟んで隣の教室に行くだけなので、いわゆる中一ギャップが無い、仲のいい学校になっている。</p>
<p>→補足として、昨年度は卒業式の代わりに修了証書授与式を1年～6年生の生徒全員で、親も来て行い、1年から5年生が校長先生の作った「やってみよう」という曲を合唱して6年生に送った。</p>
<p>とても温かい会になり良かった。中学の先生が小学性に教えに来てくれるので、より専門性が出て子供たちの興味が広がった。小中の差がない分、ダラダラしないかが心配。朝小中一緒に登校するので、小学生が怪我したなどのお世話を中学生がしてくれるなど素晴らしい事が出来てきている。</p>
<p>制服や学校名は保護者と話し合っただけで決めた。</p>

・第二小は南小と一緒に南中に行く。小中との交流はあるが、小小間での交流があまりない。南小はどう感じますか？

→交流はない。南小は人数が多く生徒が1000人近くいる。自分の学校のことで先生達も大変だと思う。学校運営協議会には現PTA会長は参加せず、役を退任したら入る。

小中一体の一貫校もいいが、分離型も環境が変わるといふ部分での良さがあると思う。環境の変化に適応する力も必要。両方それぞれの良さがある。

・他の小学校は横のつながりはどうですか？

→岩松と岩松北は学年の同じクラス同士でのビデオ通話をした。学校外では、バスケットで合同チームがあったりと交流はある。岩松中の体育館で両校が集まる交流があった。

→第一小・中央小は富士中の体育館で集まるなどの交流があった。コロナで中止になったりした。

・地域との密着・交流はどうですか？

→地域の介護施設との交流もあったがコロナ禍で行かなくなった。

→コロナ前は地域のお祭りに参加したりしていた。中止になったものが少しずつ戻ってきている。

→第一小は地域に商店街があるので、地域に学ばせていただく学習の中で、軽トラ市に参加した

・小中一貫教育が全ての小中学校で始まったが、学校によって交流の差があるのはどうですか？

→学校でまだ差があると思うが、先生達の連携というのは格段に上がった。6年間の準備期間を経て研修を行う事で小中での壁がなくなり、一体化している。小学校中学校の両方の資格を持つ先生を意図的に同じ校区で移動させる。子どもにとって安心感が増す。図書室の司書さんを同じ校区で小学校から中学に移動させたら利用率が格段に上がった。先生のつながりが子供達にいい影響がある。

結び：富士川第二のみ施設一体型で、他の学校は分離型の小中一貫教育が始まった。小中のたてのつながりと、コミュニティスクールの横のつながり、地域とつながって地域と社会総がかりで子供たちを育てていこうという富士市の大きな柱です。先生は移動してしまうが地域の方はそこにいて、地域に保護者の皆さんもいる。皆さんのご協力を宜しくお願いします。

小中一貫教育は、子供の発達が今までと変わってきている。変えていかなければいけないのでは？という所から始まっている。一番大事なのは教職員の意識改革。子供達の交流も大事だが、先生方の交流も大事で、先生の小学1年生から中学3年生までを、責任を持っていくという意識が大事。その為に教育目標を同じにして意識改革する必要がある。

周知してもらうことが大事。皆さんよろしくお願ひいたします。

以上

令和6年度 富士市 PTA 連絡協議会 合同研修会
分科会会議記録簿

令和6年6月23日(日)	会場	伝法小学校	参加者数	16名
分科会	テーマ②(小B)			
司会者	長谷川 国広	助言者	佐藤 弘明	
記録者	南 研吾	サポート	安藤 彰祥	
テーマ： 小中一貫教育化や学校運営協議会って何？				
会議概要				
<ul style="list-style-type: none"> ・東小：小規模になった為小学校と地域の活動が一緒になりすでにCS的な事をやっている。 ・吉原小：学校運営協議会自体が分からない。祭りがあるので祭りを中心に回っている人が多く、祭り事を通して地域との繋がりが自然とできている。地域との交流が取れる場が多い。 ・今泉小：学校運営協議会を知らない。活動内容が分からない。 ・伝法小：学校運営協議会は話には聞いているが具体的な活動内容が分からない。PTA活動との違いがわからない。 ・神戸小：小規模小世帯なので地域で子供を育てる感覚になっている。住民同士で助け合っている。CSDからの呼びかけがある。地域で子供たちをバックアップしている。PTA活動には参加しているが学校運営協議会がわからない。 ・元吉原小：役員からの話がない。CSも学校運営協議会も話には聞いているが活動内容が分からない。学校に協力的な高齢者がいる。同じ地域に住み続けている人が多いので地域に関しての理解者が多い。 ・吉永第一小：やる気がある人が役員をやった時とやる気がない人が役員をやった時の差がひどいので役員の選出方法を変えていく。 ・原田小：情報が回ってこないで周りのお母さんから話を聞いている。CSや学校運営協議会も初めて知った。 ・大淵第一小：PTA活動の実態が分からない。地域との交流が活発。CS便りが来るがPTA活動とリンクしてない。 				

令和6年度 富士市 PTA 連絡協議会 合同研修会
分科会会議記録簿

令和6年6月23日(日)	会場	伝法小学校	参加者数	16名
分科会	テーマ② (中)			
司会者	佐藤 祐樹	助言者	三上 聡	
記録者	高木 賢一	サポート	佐藤 麗美	
<p>テーマ</p> <p style="text-align: center;">「小中一貫教育化や学校運営協議会って何？」 (地域(まちづくり協議会、町内会・区長会等)との連携や中学校区の単Pの連携について)</p>				
<p>会議概要 (小中一貫教育と、コミュニティスクールの説明)</p>				
<p>1、小中一貫教育と、コミュニティスクールの説明</p>				
<p>小中一貫教育とは、小学校の6年間と中学校の3年間で分けて小中協力の元、9年間を一体的に捉え子供達を育てていく。松野学園以外は施設分離型ではあるが全ての小中学校でスタートしている。</p>				
<p>コミュニティスクールとは、学校運営協議会の設置が義務付けられており、協議会では学校長から学校の運営方針の説明と参加者(CSD、地区から人選された委員、PTA代表)に承諾を得、地域と社会一体で子供達を育てていくことを目的としている。学校と子供だけでは行き届かない部分での対応が期待できる。CSDは地域と学校を繋ぐ役目を担っており、ボランティア募集の呼び掛けで地域の方々にも協力頂いている。</p>				
<p>2、各学校の情報共有</p>				
<p>(松野学園) 富士市唯一の小中校舎一体型、初期を小学校1～4年、中期を小学校5年～中学1年、後期を中学2年～3年と考えて対応していく中で、子供達を教員が共有することができ、より密な対応、教育ができていると感じている。</p>				
<p>(富士川一中) 地域と学校の関わりとして、運動会を小中地域の一体型で行った。まだまだ地域と子供達を育てようという意識に温度差を感じているが、地区の防災訓練や夏祭りに中学生の参加を予定している。</p>				
<p>(伝法小学校 CSD) CSDの役割として地域と学校を繋ぐ役割を担っている。地域行事や学校行事などボランティアの募集を行っている。縦の役割と横の役割が小学校～中学校で形ができてきていると感じている。</p>				

<p>(岳陽中) 広見地区は長い間学校運営協議会の設置がされている。中学生が地域にボランティアとして地域に出ている。形を作り地域+学校を有機的に結びつけていく必要があると考える。</p>
<p>(南中) 以前では自然に小学生、中学生に対して挨拶ができたり、声をかけたりできていた。現代では中々声を掛けにくいという地域からの声もある。</p>
<p>(富士中) 地域外からの転入時に、子供会に加入方法や関わりなど相談するところがないと感じた。地域との関わりは大切だと感じている。</p>
<p>(吉原北中) 近所の方々が誰がどこの家の子かわかる時代があったが、現在は誰がどこの人か。どこの家の子かわからなくなっている。やはり地域との関わりは必要だと感じる。</p>
<p>(吉原一中) 地元のお祭りの太鼓練習は地域の方が指導してくださり関わりはあるが、太鼓のある地域ではない場所に子供が多い傾向もあるので地域に関わっている子といない子の差はあるように感じる。</p>
<p>(吉原二中) 地域間の違いもあり、学校参加へのハードルが高いように感じる。また一般の方々がコミュニティスクールを知らないと感じる。これに対しどう対応していくか、意識的な関わりや伝え方が今後の課題だと考える。</p>
<p>(吉原三中) 古くからの出来上がった地域性に入って行きにくい現状がある。地域行事があると良い。</p>
<p>(元吉原中) 地域の方々による活動グループ、吹奏楽の団体などがあり子供達と一緒に活動している。元々の児童数も少ない。防災訓練参加もできているが、もっと活発に参加できると良い。</p>
<p>(大淵中) 地域性なのか昔から今も、地域の方々と学校、子供達の関わりはとても深い。地域全体で子供達を見ていると感じている。</p>
<p>(記録者) 松野地区では、地域の至る所に学校運営協議会で作成した年間予定を記載したポスターが掲示されており、地域と子供を育てるという意識付けになっていると感じる。</p>
<p>PTA が先陣を切り、若い世代から外に出て行き、地域との関わり持ちやすい活動を心掛けている。</p>
<p>今年 7 月には、初となる夏祭りを開催する予定。盆踊りの練習を学校やまちづくりセンターで行い、地域・学校で夏祭りの準備を行っている。</p>
<p>(助言者) 松野学園では地域の防災有資格者により子供達に防災の資格をとってもらおうよう働き、勉強した子供達が防災のリーダーとして活動して行けるようにと考えている。</p>
<p>(司会者) 富士市全域で始まった小中一貫教育とコミュニティスクールだが、地域と一緒に子供をどう育てていくか共通理解を持ち、顔を合わせて協力して行きたい。</p>
<p>3、今後の課題</p>
<p>地域と学校、子供達が関わり、子供達から自主的に何をしたいのか発信できるようにしていきたい</p>

令和6年度 富士市 PTA 連絡協議会 合同研修会
分科会会議記録簿

令和6年6月23日(日)	会場	伝法小学校	参加者数	9名
分科会	テーマ③(小A)			
司会者	濱嶋 祐樹	助言者	鯨津 諭	
記録者	佐野 将哉	サポート	芹澤 佳折	
<p>テーマ 「これからの PTA 活動での問題点と解決策を模索しよう。」 (古紙回収や奉仕作業、旗振り等はほかの学校はどうしている？(どうする？))</p>				
<p>会議概要</p>				
<p>○自己紹介, 各学校の PTA 状況の簡単な紹介。(環境整備, 家庭教育多め)</p>				
<p>○古紙/缶等の回収</p>				
<p>・2/9の学校で収集している。ボックス自体はあるが、実質運用されていない状況もある。</p>				
<p>町内会の回覧板(3回/年)で周知。ボックスは学校敷地の中外で場所もまちまち。</p>				
<p>ただし相当な収益あり。</p>				
<p>子供たちが缶を持ってくる…子供の教育の側面もある。利益とは別で考えるべき。</p>				
<p>→持っていく目的, 収集後の流れ等を明確にすることがとても重要。</p>				
<p>この頃は高齢者が持っていくのが大変(取りにきてくれないの?)というご意見もあり。</p>				
<p>○役員を集め方</p>				
<p>・PTAの運用について, 各地区理事の集まりに苦慮している。</p>				
<p>・旗振り</p>				
<p>→当番制とはしておらず, ボランティア的な感じで進める方向の学校が多い。</p>				
<p>強化月間を定め, 全生徒の親にボランティアを依頼。</p>				
<p>当番制だが, 時間を決めずに例え7:00~8:00までで立てる時間で…といった</p>				
<p>一種の妥協案で運営している学校もある。</p>				
<p>・活動/交流はよいと思いますが, 収集依頼をしても, なかなか集まりが悪い。</p>				

→皆さんのご事情も踏まえて工夫が必要かもしれない。

・理事会時の参加について、例えば隣の部屋を開放して子供たちが一緒に来ても OK とする等、柔軟に対応している。

・市 P 連の必要性。

→市 P 連の必要性が理解しづらい。

利点はネットワークによる課題解決に向けて時短が望めること。

一方で必要性は、今後も議論する必要あり。

令和6年度 富士市 PTA 連絡協議会 合同研修会
分科会会議記録簿

令和6年6月23日(日)	会場	伝法小学校	参加者数	12名
分科会	テーマ③(小B)			
司会者	山田 将史	助言者	荒田 久仁子	
記録者	渡邊 高幸	サポート	伊勢谷 真史	
<p>テーマ これからの PTA 活動での問題点と解決策を模索しよう。</p>				
<p>会議概要</p>				
<p>1. 古紙回収について</p>				
<ul style="list-style-type: none"> ・市内で起きたボヤが原因で、常設していた古紙回収 BOX をやめたが収入が減ってしまった ・古紙回収 BOX の代わりにどんな活動をしようか検討中 ・BOX は常設だが時間限定で鍵をかけていて開けるのも期間限定 ・BOX の設置費用がかかり、収益が上がらないため撤去した ・体育祭・参観日など行事のときに一週間ずつ設置していた ・PTA 会費で足りない部分に古紙回収の収益を充てていたが、会費のなかで出来る活動に変えた ・収入が欲しいかどうかで古紙回収の有無を決めればいいのか 				
<p>2. 旗振りについて</p>				
<ul style="list-style-type: none"> ・当番制で年に2～3回保護者に立ってもらう ・旗振りをやめて挨拶活動だけになったが、防犯のために下校時も行いたい ・コロナで登校時間が遅くなったため、旗振りができないという意見が出たので、アンケートをとり旗振りはやめた。 ・春・夏など長期の休み明けに2週間だけボランティアで朝の見守り活動を行っている ・曜日の指定をなくし、自分の都合のよい日に行えるようにした ・部員のみで短期間だけあいさつ運動をしている ・6年生が授業で地域の危険な場所を話し合い PTA 役員も参加している ・役員が強いリーダーシップをもって、ある程度は強制的に行うことも必要ではないか 				

<ul style="list-style-type: none"> ・自分の子どもを見守るのは親の役割である、と理解を得る
<ul style="list-style-type: none"> ・地区の会員の把握が難しく当番を組む作業が大変である
<ul style="list-style-type: none"> ・小さな子どもがいたりそれぞれ事情があるので全員同じ条件での作業は無理であり工夫が必要である
<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアとすると「やらなくてもいいですよ」という投げかけにもなってしまうので、声かけにも工夫が必要である
<ul style="list-style-type: none"> ・毎月15日は子どもと一緒に登下校したり、ながら見守りを行っている
<ul style="list-style-type: none"> ・旗を持たないようにしたら歩行者と間違えられて車が止まってしまう
<ul style="list-style-type: none"> ・旗をやめて反射タスキにした
<ul style="list-style-type: none"> ・当番を廃止してCSボランティアなどを募集している
<ul style="list-style-type: none"> ・安協・民生委員・交通指導員など地区の方にもボランティアとして参加していただいている
<ul style="list-style-type: none"> ・今年からボランティア制にしたが親は見かけなくなり、地域の方を見かけるようになった
<ul style="list-style-type: none"> ・見守り協力隊のビブスをまちセンにおいておき、まちコミで下校時間を配信している→地域ボランティアがビブスを着て見守りしてくれる
<ul style="list-style-type: none"> ・CSボランティアとのつながりを考えながら上手に連携していきたい
<p>3. かけこみ110番のいえについて</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・総会資料にかけこみ110番のいえに印をつけた地図を付け、親と子に周知している
<ul style="list-style-type: none"> ・4月に役員が挨拶に行くが、文書を作り留守宅にはポストに入れるようにして訪問が一度で済むようにしている
<ul style="list-style-type: none"> ・文書を郵送するだけでもいいが、相手の顔を確認することも必要ではないか
<ul style="list-style-type: none"> ・引き渡し訓練の時にかけこみ110番の地図を渡し、親子で帰りながら確認するようにしている
<ul style="list-style-type: none"> ・夏休みに子ども会と一緒に巡回見回りしながら看板のチェックをしている
<ul style="list-style-type: none"> ・2年生が授業でかけこみ110番の勉強をしていてPTA役員も参加している
<ul style="list-style-type: none"> ・訪問しても留守である、看板が貼ってない、現在住んでいるのかという家もあるが見直しは必要か？ →断るのは難しく毎年とりあえずまわしているのが現状であるが <ul style="list-style-type: none"> ・看板が貼ってあるだけでも防犯意識の高い地域だとみられるのではないか ・留守でも家の敷地に入ってしまうえば安全ではないかとも考えられる
<p>4. 体育保健部の活動内容について</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・運動会での見回りをしている
<ul style="list-style-type: none"> ・仕事が少ないので他の部と一緒にした、または廃止して必要があればボランティアを募集している
<ul style="list-style-type: none"> ・救命講習
<ul style="list-style-type: none"> ・ボッチャなどスポーツ大会

令和6年度 富士市 PTA 連絡協議会 合同研修会
分科会会議記録簿

令和6年6月23日(日)	会場	伝法小学校	参加者数	12名
分科会	テーマ③(中)			
司会者	栗田 美穂	助言者	渡邊 健起	
記録者	鈴木 晃代	サポート	望月 拓人	
<p>テーマ</p> <p>これからの PTA 活動での問題点と解決策を模索しよう(古紙回収や奉仕作業、旗振り等はほかの学校はどうしている?)</p>				
<p>会議概要</p> <p>各学校それぞれ年何回かに分けて奉仕作業等行っています。以下、各学校の現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・奉仕作業年二回 生徒、保護者、教師。 回収ボックスは中止。 旗振りなし。 吉原一中 ・年一回 10月生徒と保護者。 古紙は中止。 旗振りは町内で保護者。 吉原二中 ・奉仕作業は体育祭前に年一回。 今年からコンテナを置いて再開。 旗振りなし。 吉原三中 ・年一回。コンテナは置けなく考え中。 旗振りは車での登校が多く必要なのか。 元吉原中 ・年一回 中体連前6月に一回。 集める場を用意したが中止。 旗振りなし。 須津中 ・年一回。 古紙年三回 駐車場で、事業所で回収も。アルミ缶は常時。旗振りなし。大淵中 ・奉仕作業 体育祭前に二回。 古紙、旗振りなし。 富士中 ・奉仕作業環境のみ年一回。 古紙、旗振りなし。 鷹岡中 ・体育祭前に生徒、保護者、教師年一回。古紙5月、9月二回平日のみ。旗振りなし。岳陽中 ・奉仕作業体育祭前に生徒、保護者、教師年一回。 古紙、旗振りなし。 吉原北中 ・10月に生徒、保護者、教師年一回。 古紙はなし。 交通挨拶運動年四回。 富士川一中 				
<p>古紙の収益はどうしているか</p> <p>・収益のある学校は、パッカー車代・学校の備品・行事のお弁当代・卒業生に渡すもの等にあてたりしている。</p>				
<p>奉仕作業問題点として</p> <p>・パッカー車代の費用がかさみ、手配も難航。行事前は運動部等が手伝ってくれる学校もありボランテ</p>				

ィアを募集したりしているが、参加者が少ない学校もあり、いつまで続くか不安があるという意見が出た。また、ボランティアでクリーンセンターに運んでいる所は処分費は発生しないが、非会員が増えてきていつまで続くか不安といった学校も。

古紙回収については

・助言者から 防犯の関係上の危険性や、コンテナの常設は市に許可を取っているか、学校がお金を得ると税金を収めるのはどうなっているか等、昨年度末に古紙の見直しが出て、話し合いがあり概ね市内の学校は取りやめている現状を踏まえ、ほとんどの学校が中止している。

上記の意見が出たなかで、学校との連携は校長先生と関係を密にし、PTA がやりきれない事は、地域を巻き込んだり、有志でやったり、各学校、小学校でやってきた事を中学校でいかせるように繋げていく事が大事。

また、会長からは PTA について、中学校は三年間しかないから、PTA は楽しい事やっているという事を小学校で話し、その流れで中学に繋げていけるようにとありました。

令和6年度 富士市 PTA 連絡協議会 合同研修会
分科会会議記録簿

令和6年6月23日(日)	会場	伝法小学校	参加者数	12名
分科会	テーマ④(小A)			
司会者	山崎 良平	助言者	藤森 三奈	
記録者	百瀬 義隆	サポート	永井 知数	
<p>テーマ「子供たちのメディア・リテラシーを高めるにはどうすれば良いか？」 (情報機器を扱う能力は伸びているが情報活用能力がひくいことについて)</p>				
<p>会議概要 1. 自己紹介(一人30秒程度)</p>				
<p>2. 最新ニュースから読み取れるモノとは？</p>				
<p>あるデパートで敷居の無いPEATイレを導入したことでトイレットペーパー盗難が無くなったという フェイクニュースを題材に、このネットニュースの不可解な点について意見し合った。</p>				
<p>3. 『過程で学ぶデジタル・シティズンシップ!』とは？</p>				
<p>各御家庭のネットルールを意見し合った。</p>				
<p>(小6, 小3) スマホはリビングのみ使用可。</p>				
<p>(中1, 小5) スマホ一時間使用で電源が切れるよう設定。</p>				
<p>(中3, 小4, 小1) ゲーム3人で1日2時間。玄関に飾れない写真は撮影しない。</p>				
<p>(小6, 小4) SIMなしスマホでゲーム、YouTube 習い事で時間が無く規制なし</p>				
<p>(小6) 12歳の誕生日にスマホ購入。ルール困惑。親が監視するのが良いことか？</p>				
<p>(小5, 小2) スマホ、ゲームとも小学生の間は持たせない。</p>				
<p>(小5, 小2) スマホ持たせるか迷う。加害者にならないか心配。</p>				
<p>(中2, 小5) 中学生からスマホ所有。時間制限なし。YouTubeで悪い言葉等心配。</p>				
<p>(小6) スマホなし。スイッチ一日1時間。スマホの低年齢化に疑問。</p>				
<p>(小6) スマホなし。スイッチ18時まで制限なし。PC20時まで。</p>				
<p>まだまだ議題はあったがここまでで時間切れ。</p>				

令和6年度 富士市 PTA 連絡協議会 合同研修会
分科会会議記録簿

令和6年6月23日(日)	会場	伝法小学校	参加者数	10名
分科会	テーマ④(小B)			
司会者	渡邊 嘉人	助言者	福澤 宏	
記録者	窪田 雅彦	サポート	拇速 功二	
<p>テーマ④ 「子どもたちのメディア・リテラシーを高めるためにどうすれば良いか？」</p>				
<p>会議概要</p>				
<p>次第2. 最新ニュースから読み取れるモノとは？</p>				
<ul style="list-style-type: none"> ・大人でも大半の方がフェイクニュースを信じてしまう。 ・昔も「〇〇ちゃんが言った」などの事はあったが、今はメディアが絡んでくるので目から入ってきて信じやすくなっているので昔よりも注意が必要だと思う。 				
<p>次第3. 「家庭で学ぶデジタル・シティズンシップ！」とは？</p>				
<p>次第4. 「インターネットとの向き合い方～ニセ・誤情報に騙されないために～」</p>				
<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル・シティズンシップとはデジタル技術を用いて社会に参画する事である。 ・ニセ情報は意図的につくられたウソ、誤情報は勘違いである。 ・悪意ある情報に気づかない人が75%存在し、25%の人が拡散して6倍の速度で広がる。 ・子供よりも親が先に勉強する必要がある。 ・騙されやすいのは「自分は騙されない」と「安心」している人である。 ・騙されない為に「情報源」、「専門家の意見か」、「他はどうか」、「画像は本物か」を確認する。 ・情報には事実と意見が混在する事を認識する。 				
<p>次第5. 現在の教育現場(学校)におけるメディア・リテラシーの教育実態について</p>				
<ul style="list-style-type: none"> ・子供たちの情報が早いので家庭より学校のほうが遅れてしまっていると思う。 ・みんなで使い方を考えていっている 				

次第 6. 学校・家庭・PTA 等で出来ることとは？

- ・ KDDI 等に学校にきてもらい講習をひらいている。
- ・ 警察のサポートセンターの活用。
- ・ PTA に対しての講習会を開いてもらう。
- ・ 家庭内や学校内で「どんな事が流行っているの？」「どんなゲームをやっているの？」
といった会話を増やし子供からの情報収集を行う。

当初は参加者自身がメディア・リテラシーに対してあまり認識がなかったが、資料や意見交換を通じて
メディア・リテラシーに対しての知識を持てたと思います。

令和6年度 富士市 PTA 連絡協議会 合同研修会

分科会会議記録簿

令和6年6月23日(日)	会場	伝法小学校	参加者数	16名
分科会	テーマ④(中)			
司会者	堺 なおみ	助言者	山田 隆之	
記録者	佐野 剛敏	サポート	飛奈 慎也	
<p>テーマ 子どもたちのメディア・リテラシーを高めるにはどうすれば良いか？</p>				
<p>会議概要</p>				
<p>1. 自己紹介(氏名、学校、専門部、子どもの学年・年齢など) 16名があいさつした</p>				
<p>富士南中…今回の目的(目標)は何か？</p>				
<p>司会者…結論が出なくても良く、自由闊達な意見交換をする場としたい。</p>				
<p>サポート…県P連、全国P連でも関心が高かったテーマを取り上げた。</p>				
<p>助言者…学校から指針を出しているが、実施可否は各家庭に委ねている。この場での情報交換が各家庭に持ち帰って活かしていくことに期待したい。</p>				
<p>2. 実際のフェイクニュース(ペイトイレ導入で盗難激減)を見て</p>				
<p>富士南中…虚構新聞はある程度の情報リテラシーを持つ人が娯楽目的で面白がっていたが、そうでない人を見ると惑わされてしまうことがある。これがいま問題になっている点である。</p>				
<p>記録者…富士南中さんはリテラシーを備えた方だと感じた。いま実際に騙された方もいたのではないか。</p>				
<p>3. 家庭で学ぶ、デジタルシティズンシップについて動画(約5分)を視聴して</p>				
<p>富士南中…家庭での対話が大切だということだが、それは昔から変わらない。世間では周りにウソがあるというのは変わっていない。変わったのは、現在は一人で世界に発信できる(できてしまう)ことであり、その対策が必要である。</p>				
<p>サポート…リテラシーが高くない人にも分かるようにするにはどうしたら良いでしょうか？</p>				
<p>(司会より、1人ずつ意見を求めた。)</p>				

吉原一中…天気や経路など自分で調べるよう勧めている。子どもは答えだけを知りたいがるが、その真偽を見極めるようにさせている

吉原二中…疑うことはやむを得ないが信用できなくなってしまうことも危険である

吉原三中…自分で考えることが大事と言い聞かせているが難しい。学校の勉強で使うこともあり使い方が

富士中…品性がない事柄をネットから仕入れているし制限しようがないので、逆にオープンにしている

富士南中…何か問題が起きたら終わりだから先に考えるように子どもと話している

鷹岡中…情報選択の力が必要だ。携帯電話の時間制限を設けた方がよいと思うが、子どもから「大人が使っているのに子どもだけ使えないのはおかしい」と言われると気が引けてしまう。

岳陽中…間違った情報でも第三者に見てもらえばわかることもある。子どもから相談できるように

吉原北中…受験を控えているが、ネットの口コミで進路を選択しようとしていて心配である

富士川一中…フェイクニュースはおかしいと思いつつも大人でも信じてしまうおそれがある。友だちに

合せようとする気持ちが強い子なので LINE の既読無視に子どもが不安があったが、親が夜 9 時で時間制限を掛けたことと、その旨を友だちに伝えたところ子どもが困ることはなかったという。

富士川二中…子ども自身がリテラシーを高めるべきだが、大人も子ども任せにしないで取り組みたい。外部講師を招いて講習を行うことも必要ではないか。

4. 啓発教育教材インターネットとの向き合い方について (スライドより)

富士南中…大きなメディアでも偏りがあると思って情報を精査することが大切である。

助言者…大淵小中では、業者に委託してメディアの取り扱いについての講習を行っている。いまや年少児でもスマホを使い、3才児でも動画を見てあやされている。これが現代の生活であり受け入れることであろう。情報の真偽を見極める教育として、新聞各紙の読み合わせを授業に取り入れている学校もある。大手メディアであっても事実は同じだが意見は異なることが書いてあると学ぶことができる。

しかしながら新聞をとらない世帯も多いことから容易ではない。今回のみなさんの意見を各家庭に持ち帰って活かしてください。

以上